

「圓光寺オマールさんの会」主催 第1回企画



サイド・オマールさん (中央)

## 圓光寺に眠る被爆南方特別留学生 サイド・オマール展



日 時：8月20日(火)～9月3日(火) 10:00～15:00

\*8/20(火) 10時より オープニングセレモニー開催

\*9/03(火) 11時より オマールさんの墓前で法要

場 所：瑞巖山 圓光寺 (京都市左京区一乗寺小谷町 13 番地 (詩仙堂近く))

・市バス 5 系統 (「一乗寺下り松」下車、東へ徒歩 10 分)

・叡山電鉄 叡山線 (「一乗寺」下車、東へ徒歩 15 分)

主 催：圓光寺オマールさんの会 (圓光寺に眠る被爆南方特別留学生  
サイド・オマールさんを語り継ぐ会)

(拝観料相当の同会へのご志納金をいただくとありがたいです。)

### 🍁 南方特別留学生とは？

太平洋戦争中の 1943 年から 1944 年の間、大日本帝国政府が東南アジアの各占領地区から招いた国費留学生。205 名が日本の大学等で学び、広島に投下された原爆で被爆した学生もいた。その内のひとり、マレーシア出身のサイド・オマールさんは帰国の途中に京都で亡くなり、現在は京都市左京区・圓光寺にあるイスラム教式の墓石の下に眠っている。

### 🍁 圓光寺オマールさんの会 (圓光寺に眠る被爆南方特別留学生サイド・オマールさんを語り継ぐ会) とは？

オマールさんに関心を寄せ、足跡を学ぶ京都市民が中心となり 2019 年春に結成された会。代表は圓光寺近くの市立修学院小学校元教諭の早川幸生 (「オマールさんを訪ねる旅 /かもがわ出版」共同執筆者)。

○問合せ：TEL/ 075-781-8025 圓光寺

※どなたでもご参加いただけます。お子さん大歓迎です。

<圓光寺地図>



<展示されているのは?>

- ・オマールさんのお話の大型紙しばい  
(修学院小学校の児童作)
- ・オマールさんの写真などのパネル、本
- ・オマールさんの絵本 (児童作)、新しい絵本も。
- ・戦後50年目に来日された  
南方特別留学生の方々の寄書き
- ・岡崎動物園のゾウさんの物語 (紙しばい)
- ・原爆被害の実相のパネル

<中国新聞 2018年12月28日>

# 平和

広島で原爆に遭い、犠牲になった東南アジアからの「南方特別留学生」の一人で、現在のマレーシア出身のサイド・オマールさんの墓が、亡くなった京都市にある寺に立つ。地元で足跡を学び、伝える動きが広がりつつある。(山本祐司)

## 被爆死の南方特別留学生オマールさん

## 京都で広がる継承の輪

オマールさんの墓前で語り合う大塚住職(左端)や早川さん(左から2人目)たち  
(京都市左京区の円光寺)

### 墓の地元 グループ結成へ

#### 広島修学旅行も再開

1943年に来日したオマールさんは広島文理科大(現在は、墓を守る会)の00年(約90歳)にあつた(興南寮)で被爆。帰国を前に体調を崩し、途中下車した京都市で45歳で亡くなった。同寺の大坪慶住職は「市民の善意で建てられた墓を支え、平和を伝える機会にするには寺だけでは限界がある」と元小学校教諭の早川幸生さん(70)に相談した。早川さんは寺に近い修学院小にいた1990年ごろ、児童の地域学習で墓の存在を知り、広島の興南寮跡を訪ねる修学旅行で興南寮跡を訪れ、栗原さん(奥右)の話を聞き、修学院小の児童たち(11月、広島市中区)とつながり、

1943年に来日したオマールさんは広島文理科大(現在は、墓を守る会)の00年(約90歳)にあつた(興南寮)で被爆。帰国を前に体調を崩し、途中下車した京都市で45歳で亡くなった。同寺の大坪慶住職は「市民の善意で建てられた墓を支え、平和を伝える機会にするには寺だけでは限界がある」と元小学校教諭の早川幸生さん(70)に相談した。早川さんは寺に近い修学院小にいた1990年ごろ、児童の地域学習で墓の存在を知り、広島の興南寮跡を訪ねる修学旅行で興南寮跡を訪れ、栗原さん(奥右)の話を聞き、修学院小の児童たち(11月、広島市中区)とつながり、

毎年(11月)に関係者が集つてオマールさんをしのび、語り継ぐ活動を続けたい」と話す。同寺の大坪慶住職は「現在の修学院小もオマールさんに再び着目している。一度は修学旅行先を変えたものの、保護者や教員の希望を受けてことし、4年ぶりに広島を選んだ。オマールさんの墓を訪れた後の11月、6年生約120人が広島の興南寮跡で当時の留学生たちを知る被爆者の栗原明子さん(92)に安佐北区から証言を聞いた。「子どもたちが核兵器はいけないと思つたためには体感することが大切。オマールさんは京都と広島をつなぐ身近な存在」と浦杉伸介校長。来年で修学旅行で広島を訪れたいという